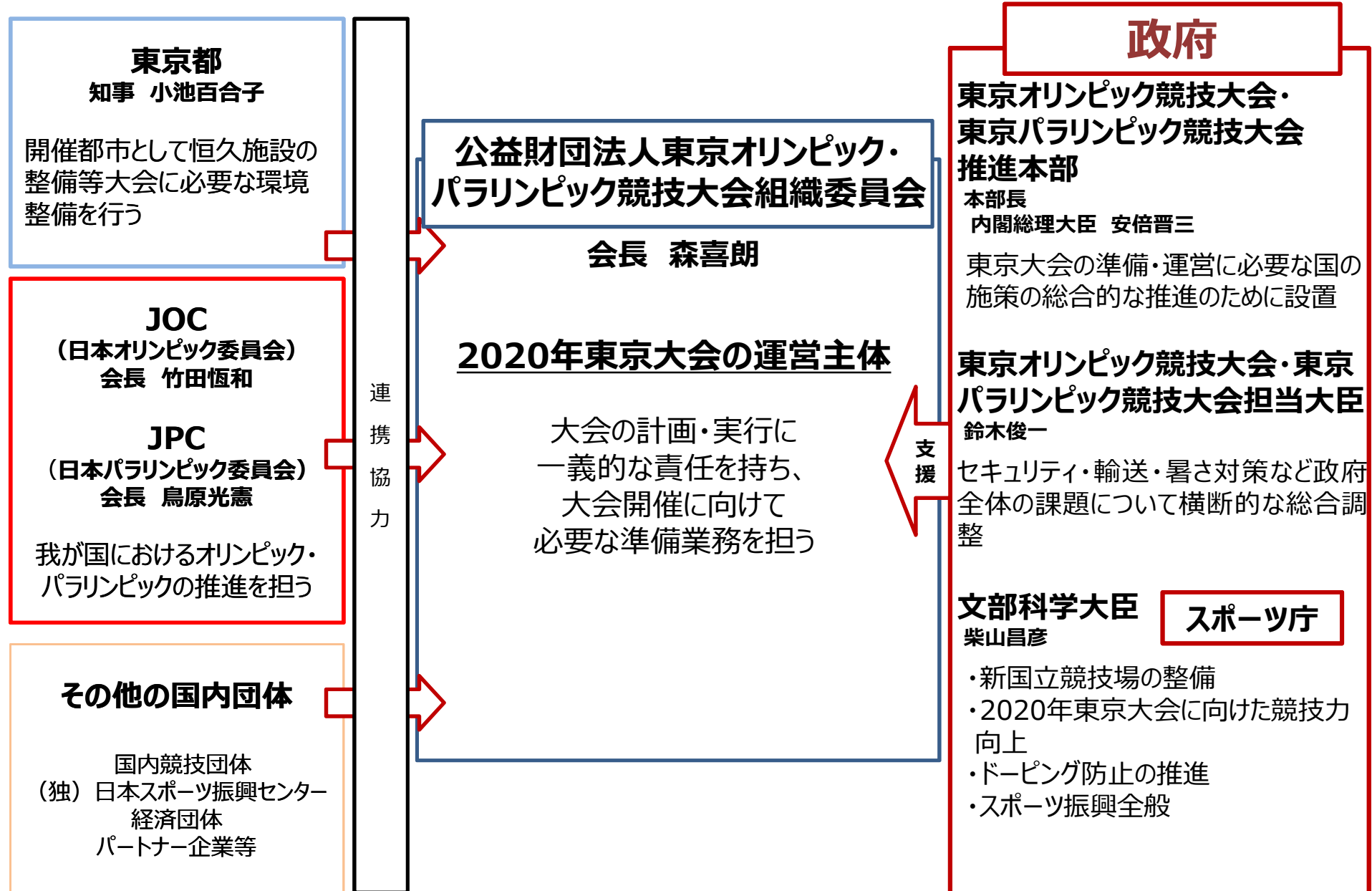




2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の準備状況及び今後の取組について

2019年5月15日

2020年東京大会に向けたオールジャパン国内体制



2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会【これまでの経緯】

2013（平成25）年	9月 7日	IOC総会（ブエノスアイレス）で開催都市が東京に決定
2014（平成26）年	1月24日	東京大会組織委員会設立（2015年1月公益財団法人として認可）
2015（平成27）年	5月27日	東京オリンピック・パラリンピック競技大会特別措置法（オリパラ特措法）が成立
	6月25日	東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当大臣（専任）を任命
	10月 1日	スポーツ庁発足
	11月27日	東京オリンピック・パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（オリパラ基本方針）を閣議決定
2016（平成28）年	5月 2日	新国立競技場整備の財源に関して、スポーツ振興投票の実施等に関する法律（toto法）等の一部を改正する法律が成立
2017（平成29）年	5月31日	東京都・組織委員会・国・開催自治体の間での役割（費用）分担の大枠合意
2018（平成30）年	6月13日	オリパラ特措法の一部を改正する法律（2020年に限った祝日移動等）、ドーピング防止活動推進法が成立
	12月14日	チケット不正転売禁止法が成立
2019（平成31）年	3月 5日	小型無人機等飛行禁止法等の一部を改正する法律案（競技会場周辺でのドローンの飛行禁止等）を閣議決定、国会提出
	3月27日	所得税法等の一部を改正する法律等（来日する大会関係者による大会関連活動に係る所得税等の非課税措置）が成立

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の概要

第32回オリンピック競技大会

2020年（令和2年）
7月24日（金）～8月9日（日）

33競技339種目
（選手数上限：11090名）

水泳、アーチェリー、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボクシング、カヌー、自転車競技、馬術、フェンシング、サッカー、ゴルフ、体操、ハンドボール、ホッケー、柔道、近代五種、ボート、ラグビー、セーリング、射撃、卓球、テコンドー、テニス、トライアスロン、バレーボール、ウエイトリフティング、レスリング、野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィン

※ 下線の競技は2020年東京大会の追加種目

第16回パラリンピック競技大会

2020年（令和2年）
8月25日（火）～9月6日（日）

22競技540種目
（選手数上限：4400名）

アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、カヌー、自転車競技、馬術、5人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ボート、射撃、シッティングバレーボール、水泳、卓球、テコンドー、トライアスロン、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、ウィルチェアーラグビー、車いすテニス

○第31回オリンピック競技大会（リオデジャネイロ）

- ・2016年（平成28年）
8月5日（金）～8月21日（日）
- ・205か国・地域
- ・28競技、306種目 参加選手数 約11,000人

○第18回オリンピック競技大会（東京）

- ・1964年（昭和39年）
10月10日（土）～10月24日（土）
- ・93か国・地域
- ・20競技、163種目 参加選手数 約5,100人

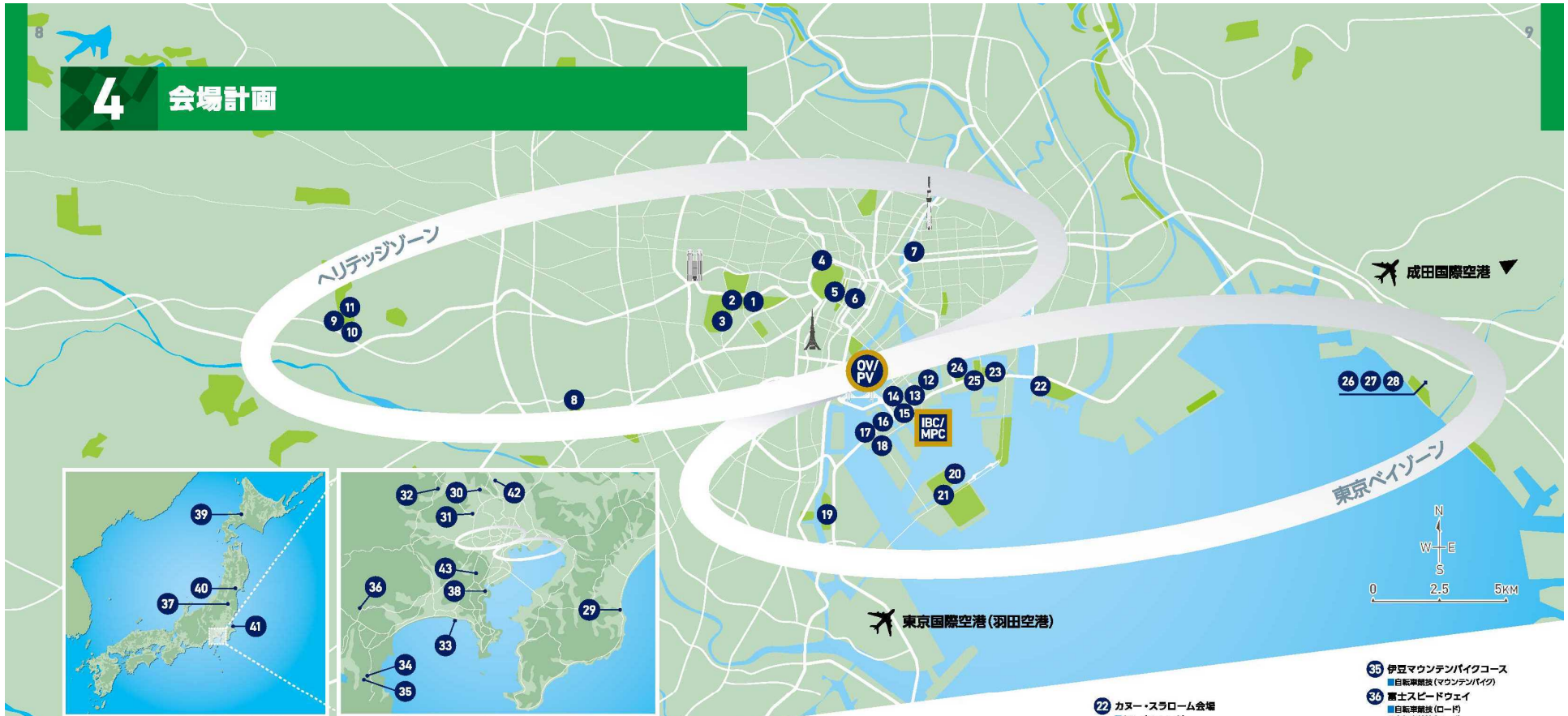
○第15回パラリンピック競技大会（リオデジャネイロ）

- ・2016年（平成28年）
9月7日（水）～9月18日（日）
- ・159か国・地域
- ・22競技・528種目 参加選手数 約4,300人

○第2回パラリンピック競技大会【愛称】（東京）

- ・1964年（昭和39年）
11月8日（日）～11月12日（木）
- ・21か国・地域
- ・9競技・144種目 参加選手数 約370人

4 会場計画



会場計画コンセプト

Infinite Excitement

— 無限の可能性 —

東京2020大会の会場計画は、東京1964大会のレガシーを引き継ぐ「ヘリテッジゾーン」、都市の未来を象徴する「東京ベイゾーン」の2つのゾーンから構成されています。選手村を中心に広がる2つのゾーンは、無限大の記号をイメージさせます。東京2020大会を通じて、トップアスリートが灯した情熱と、次世代へつなげる可能性、そして語りつがれるレガシーが無限に広がっていくことを表しています。

■ オリンピック競技 ▲ パラリンピック競技

- 1 新国立競技場(オリンピックスタジアム)
 - 開会式・閉会式/陸上競技/サッカー
 - ▲ 開会式・閉会式、陸上競技
- 2 東京体育館
 - 卓球 ▲ 卓球
- 3 国立代々木競技場
 - ハンドボール ▲ バドミントン/ウィルチェアーラグビー
- 4 日本武道館
 - 柔道/空手 ▲ 柔道
- 5 皇居外苑
 - 陸上競技(競歩)
- 6 東京国際フォーラム
 - ウェイトリフティング ▲ パワーリフティング
- 7 国技館
 - ボクシング
- 8 馬事公苑
 - 馬術(馬場馬術、総合馬術、乗馬馬術) ▲ 馬術
- 9 武蔵野の森総合スポーツプラザ
 - バドミントン/近代五種(フェンシング) ▲ 車いすバスケットボール

- 10 東京スタジアム
 - サッカー/近代五種(体操、フェンシング、馬術、レーザラン)/ラグビー
- 11 武蔵野の森公園
 - 自転車競技(ロード)
- 12 有明アリーナ
 - バレーボール(バレーボール) ▲ 車いすバスケットボール
- 13 有明体操競技場
 - 体操 ▲ ボッチャ
- 14 有明BMXコース
 - 自転車競技(BMXフリースタイル、BMXレーシング)/スケートボード
- 15 有明テニスの森
 - テニス ▲ 車いすテニス
- 16 お台場海浜公園
 - 水泳(マラソン/スイミング)/トライアスロン ▲ トライアスロン
- 17 湖島公園
 - バレーボール(ビーチバレーボール)
- 18 青海アーバンスポーツ会場
 - バスケットボール(3x3)/スノーボードパラリンピック ▲ 5人制サッカー
- 19 大井ホッケー競技場
 - ホッケー
- 20 海の森クロスカントリーコース
 - 馬術(総合馬術)
- 21 海の森水上競技場
 - カヌー(スプリント)/ボート ▲ カヌー/ボート

- 22 カヌー・スラローム会場
 - カヌー(スラローム)
- 23 アーチェリー会場(夢の島公園)
 - アーチェリー ▲ アーチェリー
- 24 オリンピックアクアティクスセンター
 - 水泳(競泳、飛込、アーティスティックスイミング) ▲ 水泳
- 25 東京辰巳国際水泳場
 - 水泳(水球)
- 26 幕張メッセ Aホール
 - フォントレー/レスリング ▲ シンチングバレーボール
- 27 幕張メッセ Bホール
 - フェンシング ▲ テコンドー/車いすフェンシング
- 28 幕張メッセ Cホール
 - ゴルフボール
- 29 釣ヶ崎海岸サーフィン会場
 - サーフ
- 30 さいたまスーパーアリーナ
 - バスケットボール(バスケットボール)
- 31 陸上自衛隊明神訓練場
 - 射撃 ▲ 射撃
- 32 麗ヶ岡カントリー倶楽部
 - ゴルフ
- 33 江の島ヨットハーバー
 - セーリング
- 34 伊豆ベテロドーム
 - 自転車競技(トラック) ▲ 自転車競技(トラック)

- 35 伊豆マウンテンバイクコース
 - 自転車競技(マウンテンバイク)
- 36 富士スピードウェイ
 - 自転車競技(ロード) ▲ 自転車競技(ロード)
- 37 福島五つ球場
 - 野球・ソフトボール
- 38 横浜スタジアム
 - 野球・ソフトボール
- 39 札幌ドーム
 - サッカー
- 40 宮城スタジアム
 - サッカー
- 41 茨城カシマスタジアム
 - サッカー
- 42 埼玉スタジアム2002
 - サッカー
- 43 横浜国際総合競技場
 - サッカー

選手村 IBC/MPC(東京ビッグサイト)

(※冊子記載の情報とは2018年9月現在のものです)



Road to Tokyo 2020 ～～みんなで作る2020～～



	(2018年12月時点)	2018年度				2019年度			2020年度	
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～3月
主な行事		▼調整委員会(年2回開催予定) [3/12]オリ500日前		[7/24]オリ1年前 ▼[4/13]パラ500日前		▼[9/20～11/2] ラグビーワールドカップ ▼[8/25]パラ1年前	▼[1/10～22予定] 1-スリルビッド冬季大会(0-ダグ)	▼[4/15]オリ100日前 ▼[5/17]パラ100日前	▼東京2020大会 オリ:7/24～8/9 パラ:8/25～9/6	
大会運営等	◆競技関係 ・2018年7月にオリンピック、9月にパラリンピックのセッションスケジュールを公表。 ・2020年春頃に詳細な進行表を決定。		▼オリ【年末頃】 イベントスケジュール決定		詳細競技計画検討			▼【春頃】 DCAS(競技運営のための詳細な進行表)決定		
	◆テストイベント ・2018年10月にテストイベントのスケジュール第1弾、11月に第2弾を公表。 ・2019年6月より順次実施予定。				Wave①	Wave②		Wave③		
	◆聖火リレー/入賞メダル ・2019年には聖火リレーのルートやランナー等について公表予定。 ・2019年の大会1年前にメダルデザイン発表予定。		【継続中】 都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト		▼【7月頃】 オリ入賞メダルデザイン発表 ▼【8月頃】 パラ入賞メダルデザイン発表				【3/26～7/24】 聖火リレー(オリ)	【オリ・パラ間】 聖火リレー(パラ)
	◆ボランティア ・2018年9月から応募フォームにて募集を開始。12月19日9時半時点で15万3012人が応募完了。 ・2019年2月からオリエンテーションを実施し、2020年3月以降、役割・会場を通知		▼【1月】ネーミング発表			▼【10月～2月】 共通研修			▼【3月～】 役割・会場の通知	
	◆大会サービス(輸送・警備・飲食等) ・選手・観客等の輸送ルート(道路・公共交通)及びその運用について精緻化を図る。 ・安心、安全に加え、円滑な入場を実現するため、大会史上初となる顔認証システム導入予定。		輸送連絡調整会議、交通輸送技術検討会等にて引き続き、輸送ルート等を検討・調整						▼【春頃】 会場運営計画V2を策定	▼【大会前】 全自主警備計画の完成 GSCC(大会警備本部)の運用開始
機運醸成等	◆チケット ・2018年7月よりチケット事前登録キャンペーンを実施中。 ・2019年春頃よりオリンピック、夏頃よりパラリンピックの一般販売を開始予定。									
	◆参画推進等 ・2020年4月から「東京2020 NIPPONフェスティバル」を全国展開予定。 ・2018年10月東京2020オリンピック公式映画の監督に河瀬直美さんが就任。 ・大会史上初めて、国際連合とSDGs推進に向けた基本合意書を締結。									
インフラ整備	◆競技会場(一般的なスケジュール) ・契約締結後、実施設計、仮設オーバーレイ工事を実施。									
	◆選手村 ・2018年12月に、飲食提供事業者が決定。 ・「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ピレッジプラザ～」を実施中。									

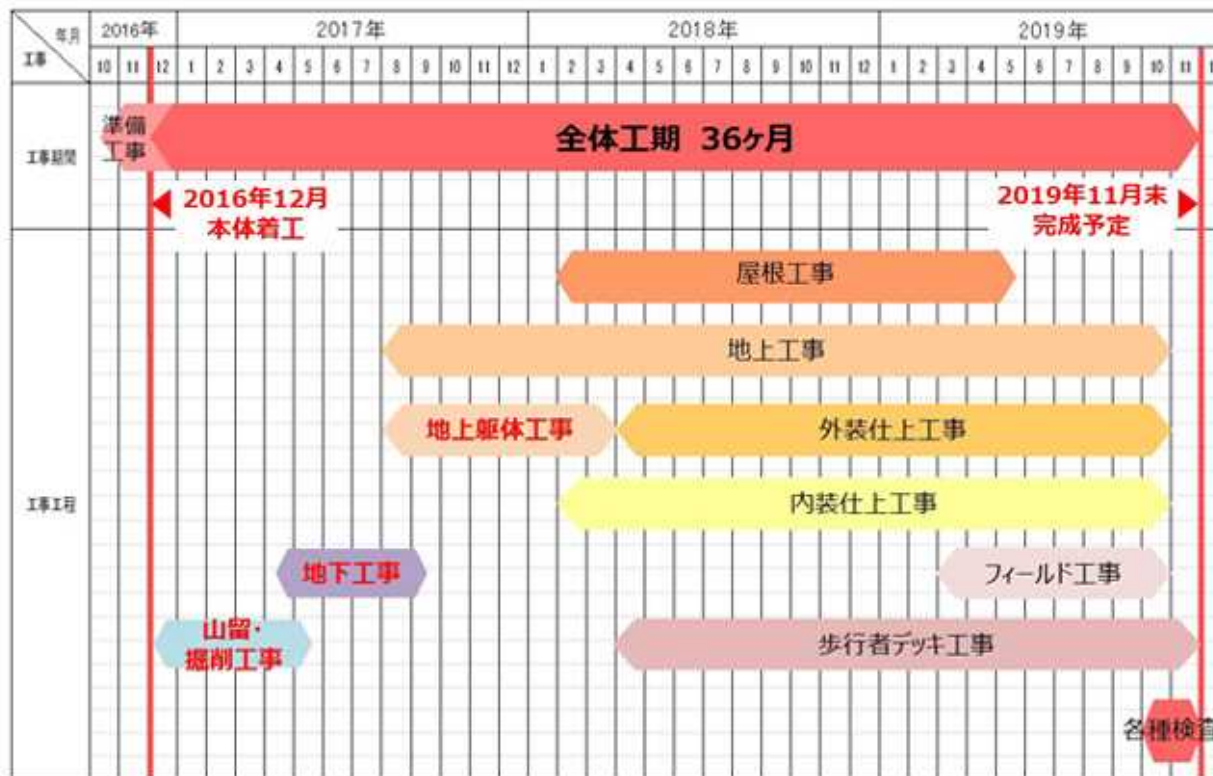
※背景の絵は 参加型企画にて 2016金賞受賞 福岡県立築城特別支援学校 吉田 空咲さんの作品

出典：(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 第31回理事会資料 5

新国立競技場の整備状況

- 2016年12月に本体工事(全体工期36ヶ月)に着工。
- 2019年11月末の竣工に向け、外装・内装・フィールド工事などを実施中。

新国立競技場整備スケジュール



※本工程は、現時点における予定です。

JAPAN SPORT



2019年4月1日現在
(JSC提供)



完成予想図
(大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所JV作成
/JSC提供)

ドーピング防止の推進

体制



スポーツにおけるドーピング防止活動の推進に関する法律

- ・スポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律施行（平成30年10月1日）
- ・スポーツにおける使用を禁止すべき物質及び国際規約に違反する行為を定める省令施行（平成30年10月1日）
- ・ドーピング防止活動に関する施策を総合的に推進するための基本的な方針を策定（平成31年3月14日）

ドーピング防止活動推進事業

ドーピング防止教育

- ・アスリート・サポートスタッフへの研修
- ・各競技団体の教育・啓発活動の年間計画の策定支援
- ・スクールプロジェクトの実施
- ・医療従事者への情報提供手法の検討

ドーピング防止活動に係る人材育成

- ・ドーピング検査員(DCO)の新規資格取得者の増加
- ・DCOの資質向上
- ・国際的なDCOの養成

ドーピング検査技術研究開発

- ・進化するドーピングに対応できる検出手法の研究開発
- ・アスリートに負担をかけないドーピング検査手法の研究開発

インテリジェンス情報を用いたアンチ・ドーピング活動の推進 (JSC)

- ・ドーピング検査だけでは捕捉できないドーピング行為に対応するため、ドーピング通報窓口の運用等を通じた情報収集や専門的知見からの分析などのインテリジェンス活動の実施。

スポーツ庁におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進について

意義

2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針
(平成27年11月27日閣議決定)

大会開催を契機に、オリンピック・パラリンピック教育の推進によるスポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する。

上記の目的の為に、スポーツ庁において、**オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業**を実施する。

実施体制

オリパラ教育地域拠点（道府県、政令市）は、**オリパラ教育全国中核拠点（筑波大学、日本体育大学、早稲田大学）**と連携し、当該地域内で広くオリパラ教育を実施するとともに、その成果を当該地域内に発信する。

地域拠点における主な取組内容

- 地域拠点における体制整備とコーディネーターの指定
- オリパラ教育推進校の指定（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等）
- 全国セミナーへの参加及び地域拠点内セミナーの開催
- オリパラ教育推進校における実践
 - ① オリンピック・パラリンピックそのものについての学び
オリンピック・パラリンピックに関する知識、選手の体験・エピソード、大会を支える仕組み等を学ぶ。
 - ② オリンピック・パラリンピックを通じた学び
オリンピック・パラリンピックを契機として、スポーツの価値、参加国・地域の文化・言語、共生社会、持続可能な社会、我が国・地域の伝統・課題等を学ぶ。
- 地域ワークショップ・報告会の開催及び全国ワークショップへの参加

実施地域

【平成28年度】 12地域（2府10県）

【平成30年度】 34地域（1道1府24県8政令市）

【平成29年度】 20地域（1府14県5政令市）

【平成31年度】 42地域（予定）

東京2020大会マスコットの小学生投票について

過去大会史上初めて小学生が選ぶマスコット
全国の小学校の約8割にあたる16,769校の投票で決定



ミライトワ
MIRAITOWA



ソメイティ
SOMEITY

© Tokyo 2020



- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、及びその後に向けた、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントに対する日本政府のコミットメント。
- 2020年オリンピック・パラリンピックの東京への招致をかけた、2013年9月のブエノスアイレスで行われたIOC総会において、安倍総理が東京2020大会のスポーツ・フォー・トゥモローのビジョンを紹介。
- 日本政府の主導により、開発途上国等において、下記の取組を推進することを約束。
 - ①スポーツへのアクセスと学校体育の質の向上
 - ②新たなスポーツ・アカデミーでのスポーツ分野における未来の指導者に対する教育
 - ③アンチ・ドーピングの普及による、スポーツの価値の更なる保護と推進
- 2014年から2020年までの7年間で、発展途上国を含む「100か国以上、1,000万人以上」へのスポーツを通じ、国際貢献を行うことを目的としている。

①取組事例

【UNDOKAI】（マラウイ）

- 運動会は年に一回、日本のほとんどの学校で行われる、全校生徒が参加するスポーツイベント。
- 多様な種目をチーム対抗で競い、楽しみながら、「ルール」や「フェアプレイ」、「規律」を学ぶイベント。
- マラウイ政府や在マラウイ日本国大使館、JICA等の連携により、3校合同で実施。



【障がい者柔道の普及】（ジンバブエ）

- 南アフリカ、ザンビア、マラウイの柔道協会・連盟も参加して、南部アフリカ地域初の視覚障がい者柔道の指導講習会を実施。
- 受身、転び方を身につけるトレーニング等の技術を習得することで、視覚障がい者のスポーツ参加や、社会参加促進が期待。



【中学校・体育カリキュラム支援】（カンボジア）

- カンボジア政府教育・青年・スポーツ省学校体育スポーツ局とJICA等の協力によって、10年前から学校体育カリキュラム策定支援を実施。
- 現地校のモニタリング調査や、本邦内での研修などを実施。モデル州でのワークショップ等、地道な活動を継続。カンボジアの新指導要領として認定。

②碑益者の推移

